

厳しい年金生活者の実態

東京都 星 俊明



私は1960年生まれで1978年に鉄道高校を卒業し、京成電鉄に入社しました。

2020年3月に企業定年退職をし、賃金は約半分にされるなか再雇用で働きました。25年4月より約42年間の京成電鉄での生活を終了し、年金生活者となり年金生活の厳しさを知らされました。

華の年金生活は夢の話

私が京成電鉄に入社をした48年前は、企業定年も55歳で定年退職後は「華の年金生活」と言われ、先輩方は退職金を元に趣味に興じたり、ビジネスを始めたたりしていました。自分も「定年までこの会社で頑張れば定年退職後は楽しい余生を送れる」と、思っていました。この間、定年延長され年金受給年齢も引き下げられ、今は苦しい生活をさせられています。

私の妻も今年11月で65歳になり国民年金が支給される予定ですが、いくら支給されるのかまだわからず期待も出来ません。受給額が少ないわりには税金や保険料等は今まで通り差し引かれます。

銀行口座の残金は減る一方

物価も年々上がってきています。決して贅沢な生活はしていないつもりでしたが2ヵ月に一度、支給される年金額（約44万円＋1万円）よりも毎月の生活費（家賃8万5千円、医療費2人で1万5千円、2万5千円、電気水道ガス等1万3千円、携帯・固定電話料金1万8千円、食費等カード支払い8万円、国民健康保険料4万3千円、民間の生命保険料1万9千円、何ヵ月か一度引かれる住民税、介護保険料5万5千円）、今後のために契約している生命保険の支払いなどの出費の方が多く、退職金を

◆特集 憲法の理念を守らない国、ニッポン



筆者が20年前の結婚当初から
住んでいる賃貸マンション

取り崩して生活しています。
20年前に結婚をした際、民間の賃貸マンションに住居にしました。毎月の家賃の支払いもきつくなってきたので公営住宅の申し込みもしていますが、なかなか当たりません。今回もマンションの更新をしなければなりません。

20年も住んでいると電化製品、ガス台、家具などいろいろな物にもガタがきて、新品交換の費用、公営住宅

に入居出来たときの引越代等、私にはまだ年頃(30代)の甥っ子や姪っ子もいるので彼らの将来、結婚したときのお祝い等、お金のかかることばかりで不安になってきます。

年齢と共に身体もだんだん衰えてきて、医療費も上がっているのだから怪我をしたり病気になるのもできません。定年退職を迎えた時に先輩方から「これからが大変だから覚悟しておいた方がよい」と、アドバイスを受けたのですが、今後の生活設計を怠った私たちも責任を感じますが、今となって先輩方のアドバイスを身にしてみても

教育費はかからなかったが

私たち夫妻には子どもがいないので、毎年1月の結婚記念日には二人で旅行に行ったり、今の時期にはスポーツ観戦(プロ野球、バレーボール)に行ったりしていましたが、今の世の中、収入が減らされることはあっても増えることは望めそうもないので「これからは少し控えるなければならないのかな」と思ったりしています。

(ほし としあき)